

### 今月のクローズアップ 一昔前の男子御三家の校長の話

終活に向けて少しずつ机回りを整理している。こんなものが出てきた。

10年くらい前だが、東京の男子校フェア（その年の会場は芝）で御三家の校長のパネルディスカッションがあった。その時に書き留めたものだ。

先生方の話は長年の経験に裏打ちされているだけに含蓄がある。いまの男の子に不足している部分、母親に心してほしいこと、校長として意識していること……。

- ・「中1の1学期、成績表をもらって泣くのがいる」
- ・「入学してすぐ大学受験のことを言うと、心が折れてしまう」
- ・「入学式のとき。生徒には『入学おめでとう』、母親には『子育てご卒業おめでとうございます』と言う」
- ・「勉強が遅れていても、熱中するものがあれば、OK」
- ・「手を出さない。口を出さない。目で見ている」
- ・「敢えて危険なことをさせる。例えば、海外研修では、提携校に生徒だけで出す」
- ・「覇気・意欲・内から湧くエネルギーを育てたい」

御三家の生徒だから可能という点もあるが、今でも多くの学校に通用する点があるのではないだろうか。

パネルディスカッションのあと、校長室で、3校の校長、芝の校長、本郷の校長、そこに私も招かれて一緒に昼食を摂った。雑談の中で出てきたエピソードも面白かった。

- ・麻布学園は別名「あそぶ学園」と言われていて、マニアックな生徒が大勢いる。先生も多彩な先生がそろっている。
- ・開成 「生活力」を付けることを重視。将来、「部屋をゴミ屋敷にしない」「飢え死にしない」ように、家事を手際よくやる能力をつけている。
- ・武蔵の校長は東京芸大卒の音楽家で、立派なひげを生やしている。今年の卒業生からのプレゼントは「髭剃り」。